清水　美孝 議員

（一問一答方式）

①自主防災組織について
②都谷川の管理について
③小田川の治水対策について

自主防災組織について

問 南海トラフ大地震など、大規模災害に備えた自主防災組織の体制づくりは重要性を増している。市は現状と課題をどう認識し、今後どのように自主防災組織と連携し、防災対策を進めていくのか伺いたい。

答 自主防災組織が設置され、約20年が経過し、人口減少や高齢化が進み、地域役員の成り手が不足するなど、自主防災組織の活動も難しくなってきています。このような中で、地域自治組織再編において、河辺地区では４つの地区が統合し、１つの自治会組織となったことから、自主防災組織も統合され、役員体制の見直しや大規模災害への対応など、時代の変化に合わせた活動ができるよう、新しい地区防災計画の策定に取り組んでいただいています。

各自主防災組織においては、時代の流れや地域の実情に応じて、自分たちの地域において今後どのような体制を整備し、どのような活動を中心にしていくことが地域を守ることになるのか、活動体制や内容を見直す必要があると考えています。

今年度は、各支所を中心として、自主防災組織や消防団と一緒に、各地域における課題の抽出や初動態勢を整理し、南海トラフ巨大地震を想定した初動対応マニュアルを作成するなどの取組をしていくこととしています。

また、自主防災組織連絡協議会や各地域での防災訓練、研修を通して、各地域の自主防災組織の体制や活動内容の情報共有を図りながら、各地域からの推薦による防災士の養成や防災士のスクラップ研修会の開催など、地域防災力の向上に努めているところです。

都谷川の管理について

問 都谷川は周辺住民にとって身近な河川であるが、汚泥の堆積や雑草・雑木の繁茂等など、河川の流下障害物が多く、増水時には氾濫の危険があるのではないかと思うが、市管理区域の対応をどのように考えているのか伺いたい。

答 都谷川は、市内中村地区から田口、徳森地区を経由し、古川、野田川と合流後、矢落川へつながっている河川です。

市が管理する区間の一部では、近年樹木や雑草の繁茂が目立ち、流下阻害が危惧されています。このため昨年度は、大洲中央病院付近から240メートル区間において、樹木や雑草の伐採を行い、堆積した土砂と併せて除去を実施したところです。

除去の対象となる区間延長が約3,000メートルと長いため、短期間で全てを除去することは困難ですが、今年度も引き続き土砂等の除去を進めて、適正な維持管理に努め、増水時の氾濫防止や景観への配慮を行っていきます。

小田川の治水対策について

問 小田川は肱川流域面積の約30％を占めており、肱川の治水対策を進めるうえで重要であるが、現行の肱川水系河川整備計画に小田川水系の治水対策は明記されていない。小田川水系を河川整備計画に盛り込み、治水対策事業を進めて行くべきと考えるが市の考えを伺いたい。

答 肱川の治水安全度の向上を図るためには、流域面積の３割強を占める小田川流域の対応は、必要であると認識をしています。

今後行われる河川整備計画の変更の中で、小田川流域についても検討していただくよう、その必要性を国及び県に対し求めていきたいと考えています。

また、先般実施した西予市・内子町と組織する肱川流域総合整備推進協議会による国土交通省及び財務省への要望活動においても、内子町長より、「平成30年７月豪雨時の小田川増水の状況には危機感を持った。」との発言もありました。今後変更となる河川整備計画では、小田川流域の対策を盛り込んだ一体的な整備内容になるものと考えていますが、市としても求めていきたいと考えているところです。